曹洞俳壇

選・村松五灰子

足遣ひ九年も半ば芸涼し

東京都　**伊奈　三郎**

評　浄瑠璃人形を操るは三人。主遣い（中心）、左手の左遣い、足遣いがある。呼吸が合わなければならない。それぞれ十年あまりの経験を積んで一人前と言われる。おりしも今年は人形師吉田玉男二代目襲名披露公演という話題も。厳しい芸の世界のすがしさを詠んだ一句。

終電の尾燈遠くに月見草

山口県　**御江やよひ**

評　写真や映画などにみる手法で背景をぼかし月見草にピントを合わせる。まさにその光景の如しで月見草の金色が幻想的で美しい句となった。

◆**うるふ秒新茶ゆっくり喉を過ぐ**　千葉県　大河原倫子

◆**馬頭碑や塩街道のほたる草**　宮城県　木村とみ子

◆**虫送田毎の畦に赤き幣**　山形県　工藤　竹洽

◆**空堀の草ことごとく刈り終へし**　静岡県　望月かほる

◆**早苗饗や膝と背中の貼り薬**　長崎県　崎田　定雄

◆**揺れぐせの日本列島今日の秋**　青森県　中田　瑞穂

◆**梅雨晴間道元禅師の旅姿**　神奈川県　佐野　勇

◆**魂の抜けたる五体籐寝椅子**　埼玉県　小林　茂之

◆**麦秋の夕日が染むる義民の碑**　福島県　佐藤　宣夫

◆**蔵の軒玉葱吊し安堵かな**　岐阜県　西尾美恵子

＊選者吟

一泊は小さな温泉秋の風

五灰子

＊作句小見

『虚子俳話』に「俳句は文芸である。文芸であるが故に描写の力が俳句の価値を左右する」とある。

やはり「写生、発見、描写」ひたすらに。

曹洞歌壇

選・長澤　ちづ

わが夫をどんな方かと君は問うメダカの好きな熊と答える　山口県　横川美代子

評　「メダカの好きな熊」という喩えから、どんな人を想像するだろう。熊から大柄で日に焼けた健康そうな男性が浮かぶ。メダカは小魚、そのギャップも楽しい。丁寧な問への答という構成から夫を揶揄しているのではないことも分かる。

あまりりす明けがたの雨に茎太く地力あつめるごとく咲きけり　山口県　中井　清子

評　アマリリスは大きな花弁を喇叭状に開く真紅の花。茎も太くて真っ直ぐに立ち上がる。球根という媒体には触れてはいないが「地力あつめる」と力強く表現して巧みである。

◆鷺舞の羽打ち合はすカシャといふ音が津和野に夏を連れ来る　島根県　横山　稾吾

◆カセットの亡妻の唄聞きただ一人今日も当てなきドライブに出る　福島県　西木　甚

◆福島市航空写真を基にして側溝除染の仮置場選る　福島県　大槻　弘

◆洗濯と掃除もすべてやり終えて君と過ごした時間にさよなら　愛知県　長谷川悦子

◆代掻きて泥おちつきたる水張り田昼は陽に夜は月にかがやく　長野県　毛涯　潤

◆一人とて武器とらぬ国七〇年これを誇らず何を誇るや　宮城県　小田島麻利

◆倒産の結婚式場真っ青な海に向かえる白い建物　山口県　濱田　道子

◆相槌の打てぬ話題も時にありしばし沈黙母との電話　茨城県　太田　弘美

◆色づきし梅の実落ちし畑一面勿体無い病頭をもたげくる　山形県　多田　さよ

◆電飾を解かれし通りの欅群六月の雨に木肌潤す　宮城県　須藤智恵子

＊選者詠

つやめきて黒き兆発する鴉いくら鳴くとも我はわれなり　ちづ

＊作歌小見

カセットの中の過去の時間をたぐり寄せて亡き人を偲ぶ西木さんの一首、過去を清算して未来に向かおうとする長谷川さんの一首、時間への向き合い方にどちらもしみじみとした情感が漂います。

大本山永平寺

三泊四日の参禅研修の風景

参禅（さんぜん）研修

永平寺では、毎月、三泊四日の参禅研修を行っております。坐禅や朝の勤行（ごんぎょう）、略応量器（りゃくおうりょうき）（大きさの違ういくつかのお椀を重ね合わせた漆塗りの食器）を使った食事等、厳格な作法に則（のっと）り本格的な参禅体験が出来ます。初めての方も何度も参禅されている方も、それぞれに得るものがあり、充実した時間を過ごされ、お帰りになられます。中には、四日間の休暇を取ることが難しいという方や、厳しくて堪えられないのではと躊躇される方もいらっしゃると思います。そこで、より多くの方に親しんでいただけるよう、十月より一泊二日の参禅研修を始めることに致しました。坐禅・朝の勤行・精進料理のほか、茶話会（さわかい）を設けております。

これは、仏教に関する素朴な疑問や日常生活における悩み等、永平寺で修行を行う者に直接聞くことが出来る貴重な時間となります。そして質問を受ける側にとっても、茶話会を通じて自らの修行のあり方を考える大切な場となるのです。

皆さまも、日常生活からしばし離れ、ここ永平寺で、自己をみつめるひと時を過ごしてみませんか？　どなたでも気兼ねなくお申込みいただき、坐禅に親しんでいただけたらと思います。

詳細は24ページをご参照ください。

大本山永平寺／０７７６-６３-３１０２

大本山總持寺

準法要の風景

峨山禅師さま大遠忌の正当法要

いよいよ十月八日から二十日にかけて峨山韶碩禅師六五〇回大遠忌の本法要が始まります。最終日の二十日は峨山禅師さまのご命日であり、江川禅師さま御親修にて正当法要が厳粛に営まれます。この期間、連日全国から大勢の焼香師さまやご寺院・檀信徒の皆さまが上山され、山内境内は一層賑やかになります。

總持寺では、七月に夏安居が解制となった後、一人も送行（修行に節目をつけて出身地などに帰ること）することなく、全員で本法要の大円成を目指しております。修行僧たちのこの大遠忌にかける想いが如何に熱いかが窺えます。このことは特筆すべき素晴らしい状況であり、本法要は冬安居の新到和尚も加わって約一七〇名の修行僧で迎えることとなります。

五十年に一度の大遠忌を總持寺修行中に巡り会うという貴重な経験を積むことにより、将来を担う修行僧たちは仏道の尊さを学びご両尊である瑩山禅師さま・峨山禅師さまの、み教えを正しく受け継ぐ道器へと成長するでしょう。そして次の大遠忌には、成長した彼らが必ずや「大いなる足音」を響かせてくれることと大いに期待されます。

歴代祖師方の大いなる足音に耳目を澄まし、教えを深く心に刻むとともに、真心を以って大遠忌の大円成が無事に達成されるよう、皆さまからのご協力を切にお願い申し上げます。

大本山總持寺／045-581-6021